

TOPICS  
1

トピックス…①

乳製品の

価格上昇と輸入増加の影響

農林水産省牛乳乳製品課の調査によると、主要乳製品の国内卸売価格が上昇傾向にあり、バターは2012年8月以降1,200円(1kg当たり)以上、脱脂粉乳は同年9月以降15,500円(25kg当たり)以上の高値で推移している。

主要乳製品の卸売価格(大口需要者価格)については、2007年度以降はバター、脱脂粉乳ともに海外の乳製品価格の上昇等を背景に国内在庫水準が低下し、上昇傾向で推移した。その後、2009年6月以降は在庫量が高い水準となったことを背景に低下傾向で推移し、10年7月以降はほぼ横ばいで推移していたが、11年7月以降は在庫水準の低下や加工原料乳価の引き上げの影響等により、バター、脱脂粉乳ともに再び上昇傾向で推移している。

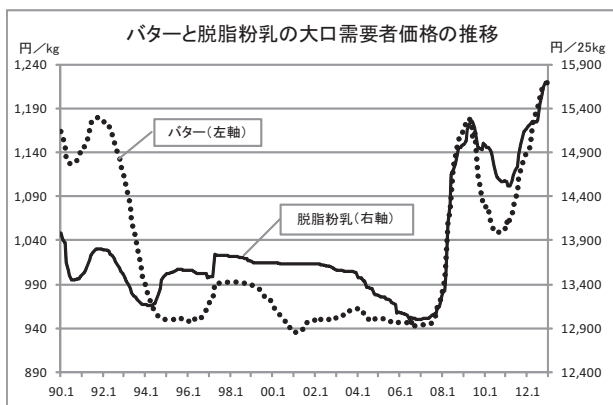
バターの大口需要者価格が1,200円を上回っていたのは1985年度以前のことであり、最近のような高水準は四半世紀ぶりとなる。また、脱脂粉乳の大口需要者価格については、15,500円台で推移するのは初めてのことである。脱脂粉乳の大口需要者価格は、2011年2月に25kg当たり14,512円であったが、それ以降ほぼ一貫して前月を上回って推移しており、2012年11月には前年同月比3.7%高の同15,699円と、過去最高水準に達した。

脱脂粉乳の大口需要者価格高騰の背景には、在庫量の減少がある。脱脂粉乳の民間在庫量は、2009年度末に69,684トンに達したが、10年度および11年度には毎年1万トン以上取り崩され、11年度末

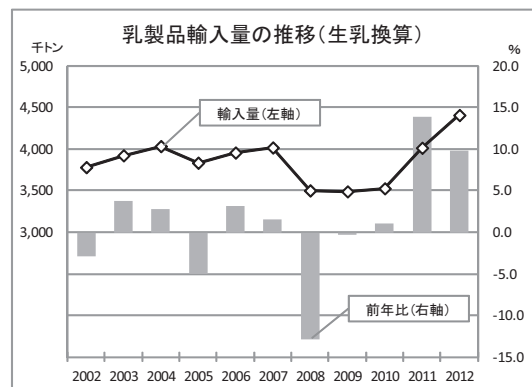
には47,620トンとなった。12年度に入っても、引き続き生産量が需要量を下回って推移しており、11月の民間在庫量は、前年同月比6.3%減の36,634トンとなった。

このような状況のもと、2012年度の乳製品輸入量(飼料用脱脂粉乳などを除く食用のみ)は、生乳換算で過去最高の440万トン台となる見込みである。これは前年度を9.8%上回る水準であり、過去最高であった2004年度の404万トンの乳製品輸入量を8年ぶりに更新することになる。円高による輸入価格の低下などの影響で輸入ナチュラルチーズの需要が拡大したことに加え、国産乳製品(加工原料乳)の供給不足によりバターや粉乳調製品の輸入が増加したためだと言われている。とくに、輸入量の大半を占めるナチュラルチーズは、2桁台の伸び率を示している。

わが国の乳製品輸入量は、国内乳製品市場の需給変動にともない幾度となく増減を繰り返し、今日に至っている。しかし、加工原料乳の供給不足が常態化し、国産乳製品の卸売価格が高止まりする状況の中で、輸入乳製品が国内乳製品市場を無制限に蚕食することが懸念される。



資料：農林水産省畜産部牛乳乳製品課調べ



資料：財務省「貿易統計」

注) 輸入量は食用のみで、2012年度は農林水産省の見込み数量である。